

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・5月号・付録
2013年5月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL (03) 5379-5521 / FAX (03) 5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

シンポジウム報告 総会開催日は6月16日(日)

— 3月理事会報告 —

2013年3月27日、3月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田編集長

・2013年5月号は校正作業は終了した。

・6月号の特集は「スポーツ放送の矜持」。表紙は長谷川京子さん。ザ・パーソンは近藤祐司さん。7月号の特集は「第50回ギャラクシー賞発表」。今年は50周年記念賞などがあるため、連載を約半分に減らして対応する。

◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉 丹羽委員長

・3月1日に2月度の月評会を開催した。4本の月間賞についての説明。3月度の月評会は4月1日に開催する。

・3月6日締切分の下期応募作品

を視聴中。4月22日に選考会を開催する。

〈ラジオ委員会〉 桜井委員長

・3月14日に合評会を開催した。

聴取した番組はFMぐんまの「G☆FORCE」で、ワイド番組の音楽をもう少し丁寧に取り扱ってほしいとの意見が多かった。

・ギャラクシー賞下期の応募は4月5日締切で受付中。4月24日に選考会を開催する。

〈CM委員会〉 五井委員長

・3月22日に定例会を開催した。例年3月はいい作品が多いが、今年あまり見当たらなかった。

・ギャラクシー賞下期の応募は4月1日締切で受付中。4月23日に選考会を開催する。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・4月5日締切で受付中。4月20

日に選考会を開催する。

◇企画事業委員会 確井委員長

・3月22日に開催したシンポジウムは参加者約170名でほぼ満席だった。途中退席者もなく最後まで熱心に受講してくれた。またアンケートの回収率も高かったため、成功だったのではないかと。会場の規模を小さくしたことは功を奏したが、地方からの講師に交通費を払ったことで若干黒字が少なくなった。

◇マイベストTV賞プロジェクト 滝野プロジェクトリーダー

・年間グランプリの投票は4月の下旬からスタートして、GW明けに決まる予定。ヤフーと打合せしたが、今年はヤフーの体制が変わったため、今年はやフーの協力は未知数だが、結果の発表はしてもらえる予定。今後ギャラクシー賞の入賞作が視聴可能にならないかの提案をした。

・小田桐常務理事からテレビ委員会の選考方法について意見があり、これについて意見交換する。結論に至らず、継続して議論していく。
・橋本専務理事から「GALAC」

が4月号より連載のレイアウトのリニューアル等誌面を刷新したが、次回、意見交換を行いたいとの提案。

2. 50周年委員会報告

藤田委員長

①50周年記念式典 橋本専務理事
入江理事、嶋田理事

記念式典の冒頭に会の歴史を30分程度にまとめて紹介する。その中にギヤラクシー賞の選考の様子を挿入する予定。

50周年記念式典は格式ある演出を目指している。

贈賞式の演出は例年と変更ない予定。

②50周年記念出版 藤田委員長

4月30日までの完成を目指して作業中。販売方法についてはこれから詰めていく。

③データベース 川喜田理事

40年史の電子化が終わって、近々、仮オープン予定。後程URLを送るので、ぜひ検索して使い勝手を確認してみしてほしい。データベース化にあたっては写真の権利問題が難行しているの、今後、応募の時に写真使用の許諾を求めるとも応募要項に入れてほしい。

④50周年記念イベント 橋本専務理事

事 藤田委員長

チラシが出来上がったので、理事一同で確認。キャッチコピーは「目を凝らし、耳を澄ませて半世紀」が提案される。また、ポスターも制作する予定なので、関係団体や大学等、配布先を教えてほしい。

イベントの中身は固まってきた。かなり充実したラインナップになったのではないかと。4月5日くらいまでには確定したい。

各日懇親会（フリードリンク、軽食付）を開催するが、大人2000円、学生1000円とする。

CM部門は第50回の入賞作品までを上映する。（五井委員長）

ラジオ部門のプログラムは「制作者と聴く ラジオドラマ大賞作品」と

「ラジオの今を支えるDJパーソナリティ受賞者 大競演」に決まった。（桜井委員長）

⑤記者会見 藤田委員長

50周年の記者会見を4月22日に行う。

3. その他

①会員名簿完成報告 中島事務局長
会員名簿が完成したので、正会員には「GALAC」5月号に同封する予定。

②総会日程 橋本専務理事

6月16日（日）に決定。

③入会

横山隆晴さん

次回以降の理事会

4月30日（火）

5月23日（木）

6月16日（日）

「出席」音好宏、橋本隆、上滝徹也、

小田桐誠、藤田真文、飯田みか、藤

久ミネ、碓井広義、丹羽美之、桜井

聖子、五井千鶴子、鈴木嘉一、滝野

俊一、石井彰、入江たのし、川喜田

尚、小林毅、坂本衛、嶋田親一、中

町綾子、中島好登

会議記録

〔3月〕

1日 (選奨) テレビ月評会

5日 (選奨) テレビ50周年イベント

7日 企画事業委員会

14日 (選奨) ラジオ定例部会

19日 出版編集委員会

22日 (選奨) CM定例部会

27日 理事会

GALAC「TV/RADIO BEST&WORST」原稿募集中!

★正会員の皆さま、ご家族、お知り合いの方の投稿をお待ちしています!

<投稿ルール>

- 1) 2013年3月のテレビとラジオ番組(地上波、BS、CS、CATV、AM、FM、短波など、日本で視聴できる番組すべて)から3つ選び、自由に論じてください。
番組名の頭に○(良い)×(悪い)マークを忘れずにつけてください。
- 2) 本文は25字詰め12行でご執筆ください。
お名前とふりがな、職業、年齢(なくてもOK)もお忘れなく。
- 3) 原稿締切は4月12日(金)です。
- 4) 匿名原稿は受け付けません。
掲載の決定は編集部にお任せください。
原稿の返却、採用・不採用の問い合わせには応じることができません。また、原稿は趣旨を損なわずに手を入れることがあります。
- 5) ご応募くださった方には、もれなくGALAC1冊お送りいたします。また、採用の方には、謝礼として1000円分のクオカードを進呈いたします。
- 6) ホームページ、郵送、ファクスで受け付けます。
宛先 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル GALAC編集部
ホームページ <http://www.houkon.jp/galac/toukou.html>
FAX 03-5379-5510

☆ギャラクシー賞マイベストTV賞☆ 2013年3月度の投票も始まりました!

ギャラクシー賞マイベストTV賞2013年3月度作品の投票を開始します。

正会員の皆さまには、メール、ファクスで改めてお知らせします。

正会員の皆さまのご参加をお待ちしています!

マイベストTV賞 携帯サイト、オープン中!
投票はこちらからもできます
<http://www.houkon.jp/m>



デブの恩返し

高橋秀樹

私は58歳。そろそろ恩返しがいよいよになりました。「つう」なら隠れて恩返しするところですが、私はデブなので目立つし、寝太郎のように意志薄弱なので宣言することにはしません。恩返しは3つ。ひとつはふるさとへ。これは天童織田藩の幕末維新史を描く歴史小説の執筆。資料は山のように集まって、後は現地取材で酒を飲めばいいという準備万端。もうひとつは、家族を支えてくれた教育・福祉への恩返し。こちらは、この春から修士課程に進み勉強を始めます。そして最後は、35年間生活の糧を与えてくれた放送への恩返し。「後進の指導」なんて奴もしたくなつてしまったのです。今、東洋大学の外部招聘講師として働いています。いずれは博士号もとって、正式な教員になろうと模索中です。いくつかの学会に所属しての論文執筆。これまでの放送の仕事上で学んだ「着想の技術」という一般書の執筆。日本民間放送連盟賞の審査員など、恩返しになってますか皆さん。

新入正会員自己紹介

今も、現場に立つて

松本修

1972年に朝日放送に入社して以来、ずっとテレビのバラエティ番組の制作を続けてきました。入社当時は、ドラマやドキュメンタリーの道を歩めたらいいな、という思いもありましたが、お笑いやバラエティの部門に配属されると、それが私の性に合っていたらしく、水を得た魚よろしく楽しく仕事に没入し、そのまま40年以上も続けることになりました。今も大阪のスタジオで、現場に立っています。こんなテレビ局員は今どき珍しいかもしれません。「ラブアタック！」が私のディレクターとしての、「探偵！ナイトスクープ」がプロデューサーとしての、ささやかな記念碑です。かつて、ドラマもバラエティも、大阪はエネルギーに満ちた物づくりの都でした。各局のスタジオで、斬新で魅力的な番組が生み出されていきました。今、制作番組のいくつもが東京に移りましたが、大阪制作の火を燃やし続けたい、その一念でがんばっています。

新入正会員自己紹介

外からの視点を活かす現場を

吉川邦夫

2010年までNHKのドラマ制作現場で主に演出の仕事をしてきましたが、昨年夏まで2年間、放送文化研究所メディア研究部で、初めて自分の仕事を現場を離れて客観的に見る機会を得ました。その間、テレビドラマのトレンドと制作スタイルの変容を外から観察しながら、NHKと民放の地域局から発信されるドラマの企画・制作プロセスの検証や、BBCとNHKの比較による公共放送ドラマのあり方の考察など、現場で長年感じてきた疑問や課題に視点を変えて取り組むことができました。昨年夏から再びドラマの現場に戻りましたが、映像メディアの発信も受容も革命的に変わりつつある今、放送批評懇談会に参加させていただき、外から見る眼差しを失わずに、あらためて放送の未来につながるドラマ作りに取り組みたいと考えています。批評される側に籍を戻しましたが、末席で勉強させていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。